

## オープン市場短信 (2019年9月)

2019.9.10

### ◆ 8月のCP市場動向

8月末のCP市場残高は、21兆3,414億円と前月比(△2,408億円)減少したが、前年同月比では+1兆9,601億円となり、市場残高は高水準を維持している。月中は21兆7,000億円台で推移し、事業法人の旺盛な資金調達ニーズを反映する動きとなっていた。業態別残高では、一般事業法人が9兆1,819億円(前月比+401億円)と微増となった。一方、その他金融は9兆8,883億円(同△202億円)、金融機関は1兆1,120億円(同△2,320億円)、ABC Pは1兆1,592億円(同△287億円)と減少した。発行レートは、引き続き投資家やディーラーの購入ニーズが強く、概ねマイナス～0%近辺の出会いであった。

#### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.000%近辺 一般事業法人(a-1格) 0.000%割れ～0.000% その他金融銘柄(a-1格) 0.000%割れ～0.020%

#### 【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	8月末残高	7月末残高	増 減
一般事業法人	91,819	91,418	401
その他金融	98,883	99,085	-202
金融機関	11,120	13,440	-2,320
政府系金融	0	0	0
銀行等	2,690	2,940	-250
証券	8,430	10,500	-2,070
ABC P	11,592	11,879	-287
計	213,414	215,822	-2,408

(注：買入消却分含む)

#### 【格付け別の発行レート】

##### 8月のCPレートレンジ

格 付	1か月	2か月	3か月
a-1+ (一般事業法人)	△ ～ 0.0000%	△ ～ △	△ ～ 0.0000%
a-1 (一般事業法人)	△ ～ 0.0035%	△ ～ 0.0000%	△ ～ 0.0000%
a-1+ (リース銘柄)	△ ～ 0.0000%	△ ～ —	△ ～ △
a-1 (リース銘柄)	— ～ 0.0000%	0.0000% ～ 0.0025%	△ ～ 0.0200%
a-2	0.0000% ～ ケ0.15%	0.0012% ～ ケ0.15%	0.0012% ～ ケ0.15%

## 「C P オペ」

C P等買入オペは、オファー額は月間で合計 5,500 億円と前月比 + 1,000 億円増額となった。オファー額の増額により、按分落札レートの低下を予想する向きもあったが、市場残高が高水準で推移していたことや 9 日・30 日のいずれも応札可能な銘柄が多かったことから、按分落札レートは $\Delta 0.001\%$ で横ばい推移であった。

〈月末オペ残高：2 兆 1,611 億円〉

## 【日銀CP等買入れオペ実績】

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
8月6日	8月9日	2,500	6,622	2,480	-0.001%	-0.001%	76.2%
8月27日	8月30日	3,000	7,955	2,981	-0.001%	0.002%	45.7%

## 「A B C P」

A B C P は、1兆1,592億円と前月比 $\Delta 287$ 億円減少したが、前年同月比では + 651 億円の増加となった。

## 「短期社債登録状況」

証券保管振替機構によると、8 月末時点における発行登録企業数は変わらず、527 社であった。

## 「C P 現先市場」

現先 (S/N) レートは運用ニーズ強く、マイナス $\sim 0\%$ 近辺での出会いで 0%では引き続き買い残り状態となっていた。

## ◆ 9月のC P市場動向

9月のC P発行市場は、中間期末での有利子負債の圧縮目的から、償還案件の増加が予想される。一般事業法人の発行動向は、期越え発行を控えショートターム物中心となろう。月末発行残は前月を下回るものの、前年同月 (15兆9,960 億円) 比では31ヶ月連続して増加し、18兆円近辺を予想する。

発行レートは、月末迄のショートターム物についてはやや上昇地合いに転じているが、期越物についてはオペ見合いから一部で深いマイナスレートでの発行が

多くなると思われる。a-1格の一般銘柄でマイナス～0.005%近辺、その他金融・リース銘柄でマイナス～0.02%台での出合いを予想する。

#### «CPオペ»

今月のCP等買入オペは、オファー額が各回4,000億円程度となっており、合計1兆2,000億円と前月から6,500億円増加している。5日にオファーされたオペは、按分レートが△0.006%と前回結果から△0.005%低下した。次回以降は、オファー額の増額とオペ対象銘柄の減少といった需給要因から、さらに低下余地を探る展開となるだろう

#### «CP現先市場»

CP現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続き0%近辺での出合いを予想する。

#### \* 参考資料 (出所：証券保管振替機構)

##### 【8未発行残高 上位10社】

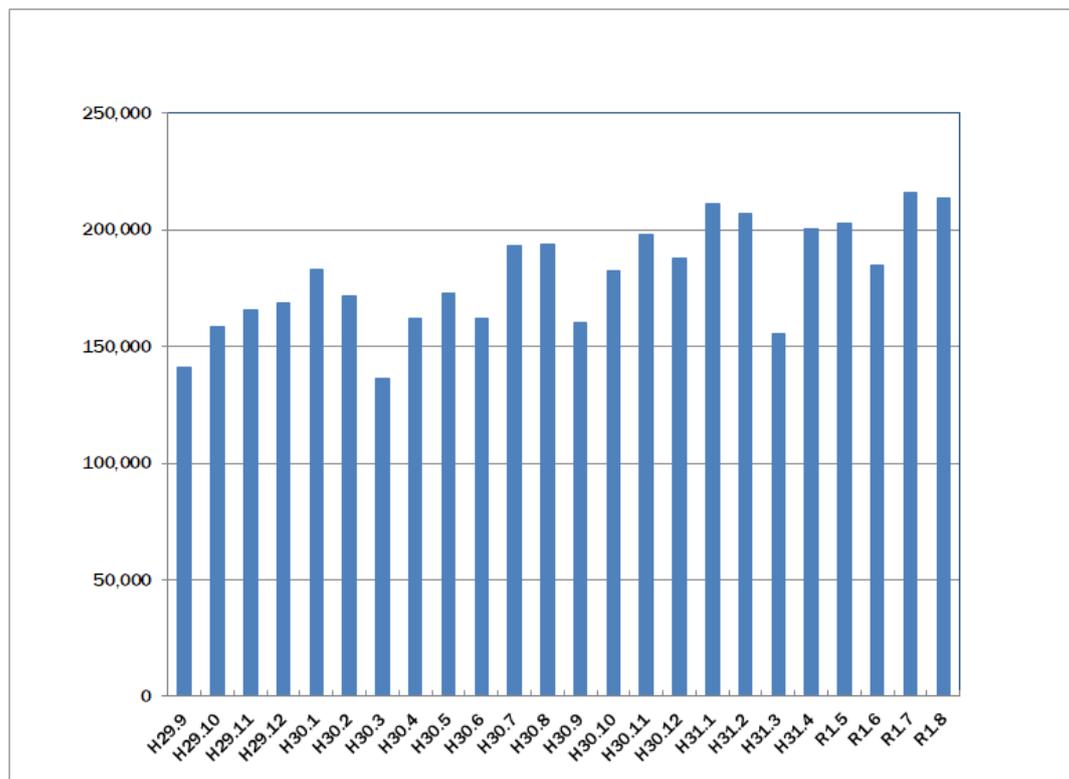
(単位：億円)

	発行企業名	8月末残高	7月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース株式会社	9,559	10,059
2	三菱商事	9,389	11,639
3	NTTファイナンス株式会社	9,230	9,850
4	三菱UFJリース株式会社	7,591	7,626
5	東京センチュリー株式会社	7,430	7,506
6	株式会社クレディセゾン	5,870	5,960
7	興銀リース株式会社	5,500	5,500
8	芙蓉総合リース株式会社	4,747	4,722
9	日本製鉄	4,660	4,210
10	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	4,547	4,606

## 【短期社債市場残高】

(2017年9月～2019年8月)

(単位：億円)



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会